
マプラヴの世界に来たオタク

ユウスケ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

マブライヴの世界に来たオタク

【著者名】

コウスケ

【あらすじ】

先生に褒められ、上機嫌で帰つたら書いてしまった、練習作。

おやおや? 何所だい?

昨日友人達と酒盛りし、ぐるんぐるんになつて、血圧のベットに眠つた記憶がある。

それがなんで……。

なんで違う部屋に居るんだ?

俺の部屋には大量のマンガにゲームがあつた。
しかし、それらがなくなり、誰かの部屋になつている。
いや、むしろ俺が誰かの部屋にお邪魔したのかも知れない。
とりあえず、ベットのそばにある俺の靴を拾い玄関から外に出る。
幸い、家は留守だったようで、誰も居なかつたようだ。
よかつた。

不法侵入で警察にお世話……。

「なんだ……これは……?」

目の前に広がる町の光景は、まるで戦争か災害にでもあつたかのように荒れている。

おやおや、もしかして俺が寝てゐる間にことなどもない事態になつてゐる?

そして、俺を混乱へと誘う物が……。

何でロボットがあるの……?

そつ、まるで、マップラヴのゲームに出てくる戦術機をパクつたようなロボが田の前に……。

ハハハハハ、これじゃあまるで、俺がマップラヴの世界に来たみたいじゃないか。

でも、このシユチュエーションって白銀だよね? もしかして俺は……。

自分の体を見下ろすが、白稜柊高校の制服ではない。よかつたような、残念なような。

もしかして、この家は白銀の家じゃないのか？

白銀の部屋なら、バルジャーノンのゲームがあるはずだ。

俺は部屋に入り、部屋を荒らす。

お、出てきた。

部屋を探すと意外にも簡単に見つけてしまった。
たしかこれで、冥夜をだまして・・・つて、言い方が悪いか。
ごまかしたんだよな。

でも、これがガンダムだったらよかつたのにな・・・。

ちなみに、生糀のオタである俺は青龍帝だつたぜ！

正直俺としては青龍帝より赤龍帝の方が好き。

D×Dでかつこよかつたし、あのおっぱいドラゴン。

部屋を出て、忘れ物が無いか確かめようとすると、ボロボロの
廃墟のような部屋になつた。

ふむ、確かに原作通りになつた。

一回田はご都合主義か？

とりあえず、横浜基地にでも行くか・・・。

しかし、ここで気が付いた。

俺、場所しらねーじやん。

ゲームの内容やイベントの日付けは、よく覚えているよ。
何回もプレイしたし、でも住所なんて出でぐるわけないし、
場所なんて分かるわけが・・・。

来ちゃつたよ、国連太平洋方面第11軍横浜基地。

意外と近くに立っていたんだね。

「おー、こんな所で何をしてるんだ？」

「外出してたのか？」

ゲートの見張りである、一人に声を掛けられた。

ああ、たしかこの二人は、涼宮姉の前に殺されちゃった人達だよね。
・。

とりあえず、鏡で顔はわからないけど、白銀設定みたいだし・。
白銀みたいにすればいいよね？

「なるほどね……」

現在、例の「ごとく執務室に来ています。

原作通りだね！

〇〇ユーニットとか因果律の話をしたらしぶじてもうらつたゾー！
それにしても夕呼さん美人だ……。

はあはあ。

「それで……あなたは、何が目的なの？国のために？それとも世界
平和？」

！？「れはまさか……。

あの名台詞が言えるのでは…

俺は真っ直ぐ夕呼さんの顔を見る。

「耳の穴をかつぱじつてよく聞いてください」

「？」

「俺は安^シ國や世界の為に戦った事は一度もありません

「なんですって？」

おおー何か少し雰囲^{ムカシ}気が怖くなつたぞ……。

やばかつたかな？でも、ここまで来たんだから最後まで
やめさせ……

「世界が滅ぼ^{ハリ}、国が滅ぼ^{ハリ}、昔か^{ハリ}でもここんですよ俺
は・・・。

でも・・・今も昔も、俺の守るものは変わつてはいません」

「それは・・・何か聞いてもいいかしら」

・・・・・

すみません、考えていません。

やべえよ、かつこうつけたけどあのセリフ何を守るか言つてねえもん。
まあ、ここでA-01やB分隊や夕呼さんを呑む歯の事だ!

とか言えればカツ「いいんだけど・・・。

そんな事いえないッス、自分チキンです・・・。

「社に聞けば、解かりますよ」

「・・・なるほど・・・ね」

おや?何か考へている様子。
あ、赤くなつた。

黒歴史でも想い出したのか?

・・・・・

まあ、じぱりとして俺の処遇の話になつたんだけど・・・。

「前の世界と同じようにセキュリティバスの発行はしておくれ。

でも・・・

「でも、なんですか?」

「今日は訓練兵ではなく、私の元で少佐として働いてもらつわ」

「なぜですか？」

「おや？まさかここで史実とは違う展開に……。
疑問に思ったのでタ呼さんに聞いてみた。

「訓練兵は今更だらうし、訓練なんてしてないで
それなりの階級で、早めに働いてもらつた方が私の役に立ちそうだ
からよ」

「そうですか……」

なるほど、確かにその方が効率がいいかも知れない。

「ま、後は貴方しだいよ。せいぜい私を失望させないよ！」
なさい。」

「了解しました」

一タ呼視点一

白銀 武

私の目の前に現れた因果律量子論を実証した人間。
見た目は207衛士訓練小隊の連中と歳の変わらないガキ。

「こんな時に、まさかあんな存在が来るなんて……」

チャンスかそれとも破滅へのプロローグか・・・。

『A - 01やB分隊や夕呼さんを含む皆の事だ!』

ふ・・・、Jの天才である私を不覚にも、ときめかせたのだから
最後まで責任をもちなさい。

私はあいつが出て行つた扉を見た後、00ゴニットに辿り着くため
の資料をあさり始めた。

—白銀視点—

夕呼さんと別れた俺は、

現在、受け付けのようなところに部屋のカードキーとカード状の身分証明書

のようなものをもらつた。

一緒に貰つた基地の見取り図をみながら、部屋を目指して廊下を歩く。

さて、夕呼さんに俺次第と言われたが……どうしたものか。

この後の事を考えつつ廊下を右に曲がろうとしたら……。

ドン

「あ、すみません」

おっと、考え方をしていたら誰かとぶつかってしまったようだ。

気をつけないと……って……!?

「いえ、こちこちら失礼を……急いでおりました故

俺はぶつかった女の子を凝視している。

だって、まさかこんな形で出会いつとは……。

「あの……私の顔に何か……?」

髪型に」、LJの声、間違いない！

やべえテンション上がってきたあ――――――！

「あの・・・」

はつーいかんいかん、このままでは不審者のレッテルを貼られてしまつ。

返事をせねば！

「いや、なんでもない。すまなかつたね、怪我はない？」

「はい、大丈夫です。私の事などより何か落ちましたよ」

そう言つて、床にあるカードを拾う冥夜さん。
手に持つていたカードが無い事からぶつかつた時に落としてしまつたようだ。

「！？」

おや？カードを見た瞬間に固まる。

もしかして変な事でも書いてあつたのかな？

「失礼しました！少佐殿！――」

「うおー？」

突然、冥夜さんが俺に対し敬礼してきた。
しかも少佐つて・・・・あ、俺、少佐だった。

「いいよ、別に気にしてないから」

「はっ！ ありがとうございますーー！」

その後、身分証明のカードを返してもらい、自分の部屋に辿り着いた俺だった。

さて、明日はどうなることやら・・・。

あ、11月11日の事をタ呼さんに伝えるの忘れてた。

—冥夜視点—

まさか、あのような歳若い少佐が居ようとは・・・。

私は先程ぶつかった男・・・少佐について現在、自分の部屋で考えている。

よほど優秀な衛士なのか、それとも親か親しい誰かのコネなのか。

私はこの夜、自分と同い年であろう少佐の事を考えながら眠りについた。

3話 御剣 冥夜（後書き）

最近は本当に忙しいです。

医療関係の勉強をしているので実験やレポート、辛過ぎます。
ですが、冬休みに入れば・・・。

これからも応援、よろしくお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9684w/>

マブラヴの世界に来たオタク

2011年11月27日08時50分発行